

【報道関係各位】

2011年8月2日
Japan Partners Against Pain®

第4回「JPAP®オレンジサークルアワード 2011」
東京都立小児総合医療センター 血液腫瘍科が
最優秀賞を受賞！
～小児緩和ケアの成果を評価～

正しい痛み治療の普及と理解の浸透を目指し、医療従事者が設立した非営利の任意団体 JPAP® (Japan Partners Against Pain® 代表世話人：JR 東京総合病院 院長 花岡 一雄)^{※1}は、7月28日(木)に第4回「JPAP®オレンジサークルアワード 2011」の最優秀賞、優秀賞、特別賞を発表しましたことをお知らせいたします。

「オレンジサークル^{※2}」とは、“がんの痛みを取り除くことで、患者さんが、がんそのものと取り組む気力や体力を得る”という考え方を実践する医療チームの活動をサポートする JPAP®の取り組みで、医療チームからの登録申し込みに基づき JPAP®が認定します。その活動の一環として、緩和ケア活動の院内・院外での認知度をさらに高め、よりよい治療の普及と発展に寄与するべく、昨年引き続き第4回「JPAP®オレンジサークルアワード 2011」を実施いたしました。

【最優秀賞】

最優秀賞は東京都立小児総合医療センター 血液腫瘍科に贈られました。同病院は東京都が母体となる〈小児〉専門の医療施設であり、全国でも珍しい小児緩和ケアを実施している施設です。小児緩和ケアは対象患児が出生児から20歳代までの成長過程を迎えることから、緩和ケアに求められる医療ニーズは多種多様です。そこで同病院では、がん進行期の患児や家族が療養の場を在宅医療に求めた場合のマニュアルとして、「小児がん在宅医療ガイドブック」を作成しました。また、小児がん患児は発展途上国に多いことから、ベトナムのフエ中央病院の協力を得て、当該病院にて小児緩和ケアを実施しています。昨今、成人緩和ケアが社会的市民権を得つつある一方で、小児緩和ケアの普及が不十分であるわが国において、様々な工夫を積み重ねてきた独自性の高い活動が評価され、今回の受賞となりました。

—東京都立小児総合医療センター 血液腫瘍科
のコメント—

「本当に嬉しいの一言です。小児緩和ケアはまだまだ日本で認知されていません。また現代の医学は欧米諸国の研究が目立ちますが、実は発展途上国にニーズが高いこともあまり知られていません。今回の発表で、これまで自分たちがコツコツと続けてきたことを高く評価いただいたことは、チームメンバーのモチベーションアップにつながります。」



【優秀賞】

優秀賞は山形大学医学部附属病院 緩和ケアチームに贈られました。同病院は2005年にがん臨床センターが設立され、2008年から緩和ケアチームが活動を開始。「はやい・やすい・うまい」の3拍子をスローガンとしたチームも4年目を迎えました。担当医師から緩和ケアの介入依頼が入った場合には、すぐに対応できる「行動のはやさ」。患者さんやご家族だけでなく、医療従事者からも気軽に相談されやすい雰囲気配慮する「しやすさ」。患者さんを苦しめるがん性疼痛を依頼を受けた即日、もしくは翌日に取り除けるような「技術のうまさ」。この「はやい・やすい・うまい」の3拍子をスローガンにした活動が高く評価されました。

—山形大学医学部附属病院 緩和ケアチームのコメント—

「受賞するとは思っていなかったもので、とても驚きました。これまでの4年間の活動を何かの形にして残したかったので、思い切ってエントリーしました。他地域のチーム活動の内容も共有することができ、非常に有意義でした。」



【特別賞】

特別賞は琉球大学医学部附属病院 緩和ケアチームに贈られました。同病院では1999年に緩和ケアチームが発足、2009年には緩和ケア外来を開始しました。沖縄県は5つの二次医療圏のうち、過疎地域の北部、宮古、八重山医療圏に地域拠点病院がないため、医療者だけでなく患者さんや市民にも、早急に離島での緩和ケアの普及・啓発・向上を図る必要がありました。そこで「院内から離島へ」というスローガンのもとに、宮古、八重山医療圏内で医療者向けの研修会や一般向けの講演会をひろく実施しています。これらの活動が高く評価され、今回の受賞につながりました。

—琉球大学医学部附属病院 緩和ケアチーム—

「沖縄県は離島が多く、地域的にがんの告知を含めて、まだまだ緩和ケアの普及が十分でないところが多いのが現実です。そんな中で、約10年近くにわたり緩和ケアを続けてきました。今回、特別賞をいただき、これまで続けてきたことが、やっと一つの成果になったと思います」



JPAP[®]代表世話人である花岡 一雄 先生(JR 東京総合病院 院長)は、第4回を迎えた『JPAP[®]オレンジサークルアワード 2011』開催にあたり、「年を追うごとに発表内容の質が確実に上がっており、緩和ケアに対する積極的な取り組みが各地で広がってきているように感じました。緩和ケアは決して院内だけの課題ではなく、今後は地域を巻き込んだシステムがさらに必要になってくるでしょう。その意味でも今回受賞された施設のように、病院内にとどまらず病病連携、病診連携を含めた広い緩和ケアのサポートシステムが重要になってくると考えます。」とコメントしています。

現在、がんは日本人の死亡原因の1位であり^{※3}、国民病と言っても過言ではありません。したがって、がんの痛み治療は、多くの日本人が直面するきわめて重大な問題です。また、2007年4月には「がん対策推進基本法」が施行され、治療の初期段階からの緩和ケア実施が、重点的に取り組むべき課題として掲げられました。今後、日本のいたるところで緩和ケアが行き届き、患者さん一人ひとりのニーズにあわせた適切な治療の実践がますます求められています。

以上

※1 「JPAP[®]」について:

「JPAP[®]」は、正しい痛み治療の普及と理解の浸透を目指し、2003年11月に医療従事者が設立した非営利の任意団体です。2011年6月30日現在、2,410名の医療従事者が会員となっています。詳しくは、JPAP[®]のウェブサイト <http://www.jpap.jp> をご覧ください。

※2 「オレンジサークル」について:

「オレンジサークル」は、“がんの痛みを取り除くことで、患者さんが、がんそのものと取り組む気力や体力を得る”という考え方を実践する医療チームからの登録申し込みに基づき、JPAP[®]が認定するものです。現在130以上の緩和ケアチーム、600名以上の医療従事者が参加しています。既に緩和ケア活動を展開しているチームの施設内でのアピールをはじめ、緩和ケアチームの立ち上げや、患者さん・ご家族向けの緩和ケアに関する啓発活動などを支援しています。参加チームには、JPAP[®]のウェブサイトでの病院紹介とともにチームの院内活動をご紹介します。またオレンジサークルスターキット(院内ポスター、認定バッジ、認定ステッカー、オレンジサークル認定証)のほか、ご希望の施設には患者さん向け小冊子をお届けしています。

※3 厚生労働省 平成19年人口動態統計より

<報道関係者のお問合せ先>

JPAP[®]企画・運営部 広報窓口

ムンディファーマ株式会社

安藤 かおる

Tel: 03-6718-2979 Fax: 03-6718-2351

E-mail: kaoru.ando@mundipharma.co.jp

ターギス株式会社

篠崎雄一郎

Tel: 03-5437-5501 Fax: 03-5437-5503

E-mail: yshinozaki@targis.co.jp